

bibligare

● まちなか図書館情報紙 — [ビブリガーレ]

Vol. 8

世界を広げ、まちづくりに繋げる
“知と交流の創造拠点”

まちなか図書館情報紙「bibligare」とは
bibliは「本」、ligareは「つながる」を意味し、
本を通して人、街に繋がる図書館をイメージした造語です。

特集1

気になるあのヒトに
会いに行こう

特別
企画

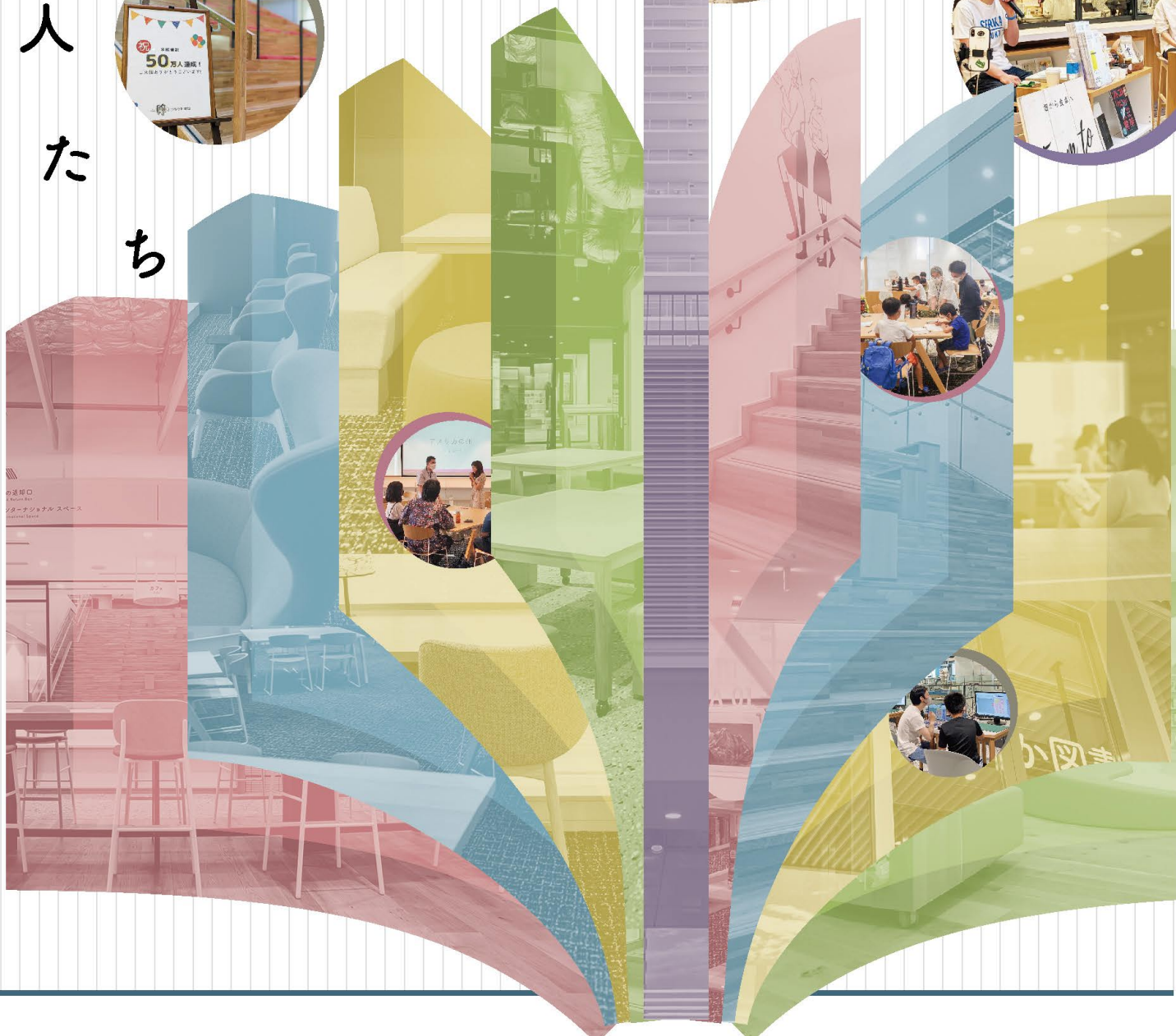
松井玲奈さん
インタビュー

特集2

一本もあるし、司書もいる。

●発行=豊橋市

新
た
な
出
会
い、
つ
な
が
る
人
た
ち



対談 館長がいま会いたいひと

館長の種田が、いま一番お会いしてみたい方皆さんにぜひ知ってもらいたい方をゲストにお招きし、対談します。



豊橋総合動物公園 高見園長ののんびりパークで取り組んでいる野生動物の保護や動物福祉についてお聞きしました。



担当 種田 浩

春夏秋冬違書 編集長 味岡伸太郎さん 株式会社フリッジ代表 編集者 立古和智さん 三遠南信の話題を他にい切り口で発信している 出版社の視座についてお聞きしました。

対談 おしやべり

まちなか図書館スタッフの増田が、穂の国とよよし芸術劇場PLATのスタッフやゲストを招き、PLATの上演や控えた作品やPLATの企画についてその魅力やポイントに迫る企画。より作品を楽しめるようになる図書館の資料も紹介しながら、演劇を観たことが無い方にもお楽しみいただけるトークイベントです。



パフォーマンス スペースのようす

例えばあなたが何か舞台を観ようと思った時、図書館ではその舞台の時代背景を調べることができるし、作品によっては戯曲(台本)を読むこともできます。逆に、あなたが好きな物語が舞台化された時、劇場に足を運べば、もしかしたらその作品をより楽しむことができるかもしれません。図書館と劇場は、扱っているモノは異なりますが、実はとても親和性の高いものだと思っています。2つが徒歩圏内にある質沢を伝えつつ、相互的な人の流れが生まれたら良いな、なんてことを思っています。



中央ステップのようす

担当 増田 隆人

座談会 図書館夜会

本にまつわる仕事をしている人やまちなかの人をゲストと呼び、参加者と気軽におしゃべりをする座談会です。



ひとひとカフェからのご縁で市内焼煎所の店主さんをお招きして、珈琲のカッピングをしました。

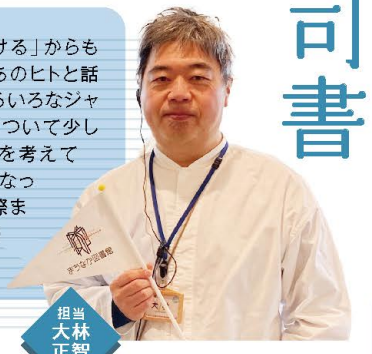
座談会

図書館で おしゃべり With ROCK司書

まちなか図書館司書「ROCK司書の図書館ライブ」著者の大林が、地域や図書館業界界隈で活躍する人とともに、さまざまな角度から本や図書館の楽しさを共有しようというトークイベントです。



愛知大学教授の櫻村愛子先生をゲストに迎え、ご著書の『この社会で働くのはなぜ苦しいのか』について、また専門の社会学という学問についてお聞きしました。



担当 大林 正智

「気になるあのヒトの話聞ける」からもう一歩踏み込んで「気になるあのヒトと話ができる」をコンセプトに、いろいろなジャンルのゲストを招いたり、本について少し深掘りしたりするような企画を考えています。参加者同士が仲良くなって、イベント終了後も閉館間際までおしゃべりが続くのも、この企画の特徴と言えるかも？

「東海ナレッジネット」の方に来ていただいた回は、初来館のお客様が多数だったため、館内のご案内からスタートしました。



少し具体的になるような種類に分類してみました。1つは、今あるものをより良くするような出展会。2つは、シンジャイシロップの製造に当てること。3つは、今までの美味いシロップを作る。4つは、今までの「みたいな出会い」ですね。もう一つは、今までの無いものを生み出す出会い。前者の出会いも、とても大切ではありますが、シロップの製造所を立ち上げたり、朝市を始めることができるのは、後者の積み重ねがあったらいいと思います。今の世の中はさまざまな情報が個人が発信出来る世の中です。さまざまな情報が発信される一方、情報は集約され、あなたはこういうのが

bibligare コラム

TEMASOBI GINGER 中川清史

予期せぬ出会いが生まれる図書館

あり、コラムを書くことになりました(今まさに図書館で執筆中です)。タイトル「新たな出会い、つながる人たち」について考えてみたいと思います。早速ですが、良い出会いってなんだろう？私は「何らかの価値が生まれる出会い」と考えます。価値の部分がかなり曖昧ですね。もう

交流会

音読と おしゃべり

詩や短歌、短い文章などを声に出して読む会です。作品についての感想を話し合ったり、参加者同士の交流も楽しめます。



対談 郷土を掘り下げる！

豊橋市図書館学芸員が、まちなかエリアの神社やお祭りなどの歴史文化を紹介します。



平成27年に復活した「吉田花祭り」について、実行委員の皆さんと歴史や復活の経緯について掘り下げました。

対談 まちなかを噛みしめる！

図書館スタッフと「ペーパー」愛される名店 豊橋駅前エリア「企画執筆の竹本が、豊橋まちなかエリアの老舗店主をお迎えして、お店やまちの歴史、商品開発秘話などについて聞いていくシリーズ企画です。



日本料理みなと4代目で豊橋調理製菓専門学校校長の鈴木さんに、坂前という職家について伺いました。

長年まちに愛されているお店の、店主の人柄、職人さんの技術やこだわり、お客さんと築いてきた関係性は、クロースドな情報としていざお店に入り込んでみないとあまり知られることはありません。まちなか図書館というオープンな場所で皆さんにそれらを展開することで、お店と皆さんの距離が少し近づいて、ひいてはそのお店があるまちなかエリアに興味をもってもらい、まちへと歩き出すきっかけになったら良いなと思っています。

担当 竹本 甲



左から、マツナーホーンさん、若松園さん、千賀商店さん、絹与さん。2022年はまちなかのお菓子屋さんに来てもらいました。

松井玲奈さん インタビュー



豊橋市まちなか図書館 スペシャルライブラリアン 松井玲奈さん 「スペシャルライブラリアン」として、まちなか図書館と豊橋の魅力を発信してくれている松井玲奈さん。今回はまちなか図書館に訪れてみての印象や、普段どんな風に本と向き合っているのか、その読書スタイルについてお話を伺いました。

◆松井

すごくキレイで、私の想像していた図書館とは全く違っていました。中でもテーマ配架が印象的で、これまで触れる機会がなかった本との出会いがあり、そして感じました。棚に置かれた見出しにあるキャッチコピー？も面白かったです。 ※館内の各フロアにスペースのコンセプトに沿った資料を並べたまま企画展の展示も本棚の奥の方

◆松井

特にまちなか図書館のすぐ横にある水上ビルエリアは、私が学生だった頃に比べ雰囲気が変わっていると感じました。リノベーションがカフェがあったり、少しずつお洒落な街に変わっていった感じがして嬉しかったです。 まちなか図書館は開館して1年が経ちました。チャレンスを積み重ねた1年でした。松井さんのこの1年のチャレンジについて教えてください。

◆松井

仕事は常にチャレンジの連続でした。役者業という、配役ごとにその役割や背景が全く違うので、はじめてのものにひとつひとつ取り組んでいったのか。特に本が原作になっている作品は、映像化にあたりどう表現するのかが良いのか、原作のファンの方にはどのシーンが印象的だったのか、どんなふうにあ愛されているのか、少しでも作品のことを理解してお客様に楽しんでもらえるように、しっかりと読み込むようにしていました。

◆松井

靴の中にも文庫本を1冊持ち歩くようにして、時間があるときや仕事の休憩中に読んでいます。本棚をパツと見て「これ読みたい」と直感的に思ったものを手に取り、連れていったん現実から離れて自分セットするような意味で取り入れていきます。家の本棚は「まだ読んでいない本」と「読んだことのある本」に分けていますけど、そこに入り込んでみるようになったのは、豊橋の実家に来るんです。豊橋に帰ったときにその本棚を見て、とまた読みたくなって、連れ帰ってくるなんてこともあります。ジャンルは多いけど、最近でも読みやすいエッセイが多いかな。最近では電子書籍という手もありますが、やっぱり紙をめくるのが好きですね。

◆松井

では最後に、松井さんが今後スペシャルライブラリアンとしてやってみたいことを教えてください。 ◆松井 子どもの頃のたくさん読書をした経験が、本好きな今の自分につながっていると感じるので、豊橋の子どもたちにも本を読む楽しさを知ってもらいたい。青い鳥文庫は読みやすい世界観も面白くて、特に「はなみかおのり」の作品はよく読んでました。 ◆松井 キッズスペースのよみかせやオススメの本紹介も定期開催していますので、また機会があればぜひやりましょう！

岡田直美 司書



アクティブゾーン

館全体をフルコースに例えると前菜のような場所。スポーツや音楽、料理や健康、ファッションなど日常を彩る本が並びます。ピアノを弾くことができ、音読や体操などのイベントを楽しめるのもこのゾーンの特徴です。A18の棚には館内視聴できるDVDもあります。

おばあめし

大迫知信&おばあ / 著
清流出版 2022.9
著者の「おばあ」が作る大胆きわまりないおにぎりの写真とエッセイの本。おばあ孫の素っ気なくもあたたかいやりとりがほっこりします。



わたしの一冊

岡田奈保子 司書

キッズスペース (アクティブゾーン内)

子ども向け図書のスペース。人気の本は常に貸出中、というのには図書館あるあるですが、ここでは、いつ来ても館内で楽しめる絵本や読み物を用意しています。知育玩具もあり、少々にぎやかに読んでも大丈夫！毎週、さまざまな団体による読み聞かせも開催していますので、気軽にご参加ください。



JK、インドで常識ぶっ壊される

熊谷 はるか / 著 河出書房新社 ■2021.12
父の仕事で海外生活…行先は、インド!? 憧れのJK生活の代わりに経験したのは、想定外の文化や風習、子供たちとの触れ合いだった。現役女子高生(当時)が感受性豊かに描いた、笑えて、考えさせられる一冊。



わたしの一冊

小川訓代 司書

ラーニング・クリエイティブゾーン

「働くこと」をテーマにしたエリアです。経済書、就職・転職に役立つ情報、仕事を楽にするヒント、職場の困りごとの解決、語学力やICTのスキルアップ、読むとやる気が出るお仕事小説など。経験ゼロからベテランまで、いろんなビジネスシーンに役立つ本や雑誌が並んでいます。担当者としては、L12「地域のちから」に立ち寄ってもらえると嬉しいですね。



1階革命

私設公民館「喫茶ランドリ」とまちづくり
田中 元子 / 著 晶文社 ■2022.12

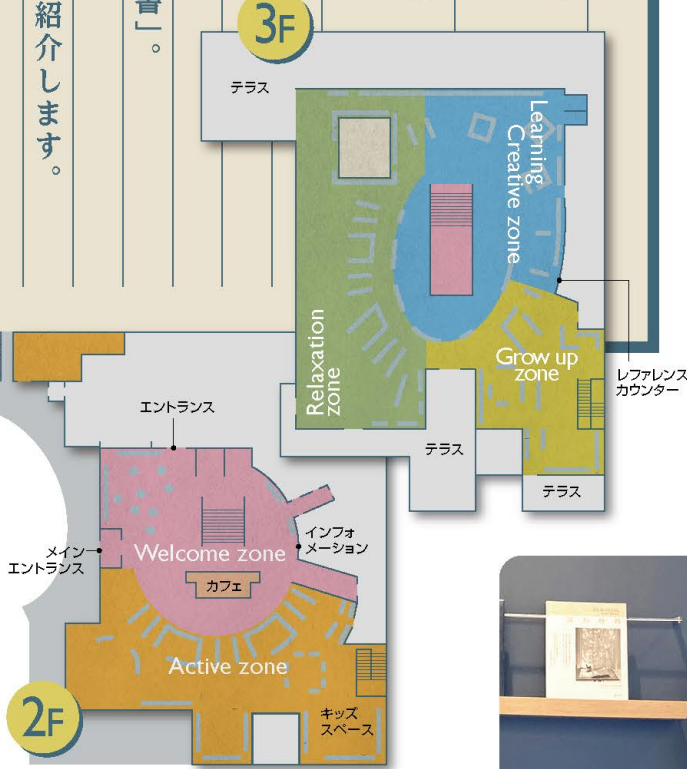


「1階づくりはまちづくり」をコンセプトに、誰もが気持ちよくいられるパブリックな居場所づくりをめざして活動する著者の熱いまちづくりのストーリー。前著『マイパブリックとグランドレベル』もおすすめです。

わたしの一冊

本もあるし、 司書もいる。

本以外の話題に注目が集まる
まちなか図書館ですが、もちろん本のことにも力をいれています！
そしてその仕事を担当しているのが「司書」。
まちなか図書館の司書を、その担当ゾーン、おすすめ本と詳しく紹介します。



古本屋台

Q.B.B. / 著 集英社 ■2018.4
古本を売る屋台!そしてなぜかお酒が飲める。焼酎100円、おひとり様一杯まで。オヤジと常連客の交流が味わい深い「古本屋マンガ」です。



わたしの一冊

大林正智 司書

リラクゼーションゾーン

ゆつくりと本の世界に入り込めるゾーンです。歴史や哲学から、医療や趣味、旅行など生活に密着したもので、幅広いジャンルの本をおいています。担当者イチオシは「本と出会う」のコーナー。ブックガイドや読書術、本屋さんに関する本など「本についての本」を集めています。R24の棚はどうぞ!



グロリアップゾーン

中高生の「今」に役立つゾーンです。好奇心を刺激する本はもちろん、進路選択や勉強、部活に役立つ図書が充実しています。将来を考えるキッカケになりそうなマンガも揃えました。また、G08の本たちは、そつとティーンズの皆さんの悩みに寄り添っています。困ったときは立ち寄りみてね。

わたしの一冊



現代アートをたのしむ

原田マハ・高橋瑞木 / 著 祥伝社 ■2020.5
初めて現代アートに興味をもったならこちらの本を。代表的なアーティストや世界各地の美術館を通して、現代アートの面白さを発見できるガイドブック。



七原千紘 司書

ウェルカムゾーン

地域の情報は「とよはしコーナー(W12 W13)」で。豊橋を知るための読みやすい本を厳選フリーパーやチラシからも気軽に情報を得られます。また「マガジンスペース」には約300誌の雑誌の最新号と16紙の新聞をおいています。

クリエイティブゾーン

(ラーニング・クリエイティブゾーン内)
クリエイターを目指している人もアートを楽しみたい人も。イラストやゲーム、プロダクトデザインなどの創造や制作のためのアイデアやツールから、建築や工芸、現代アートまで芸術を堪能できる本を集めています。メーカーズラボにある動画編集ソフトを備えたパソコンやカットイングマシンSTIKIAで創作活動もできます。

まちなか図書館

所在地 豊橋市駅前大通二丁目81番地

emCAMPUS EAST

2階・3階

開館時間

9時~21時

休館日

第4金曜日(祝日のときは前日)

年末年始、特別整理期間

お問合せ

電話 053-221-5518

LINE

Instagram

詳しい内容については、ホームページをご覧ください。

「豊橋市まちなか図書館」で検索

公式アカウント



発行日 令和5年3月
制作 株式会社エクスラジ
アートディレクター 井田慎性
デザイン 山本剛之